

# 日本スペインピアノ音楽学会 (JSSPM)

## 学会誌 第5号 原稿投稿規程

2020年8月1日改訂

当学会誌に投稿可能な原稿の種類は、スペイン、イベロアメリカのピアノ音楽に関する「論文」「研究ノート」「紹介・報告」「エッセイ」である。いずれも未発表、未公開でなければならない。投稿の応募資格を擁する者は、当学会会員に限る。

「論文」は、先行研究を多角的に検討したうえで独創的な知見が示されているだけでなく、脚注などによって、その知見の裏付けを実証的に示す手続きがなされていることが必要となる。論文としての条件を満たせば、「事例研究」「事例報告」の類も投稿可能である。

「研究ノート」は、論文の体裁はとらないものの、学会誌にふさわしい専門的研究や調査報告の記事を指す。

「紹介・報告」には、楽譜、CD、図書を対象とする紹介記事や、演奏会・コンクールなどの記事が含まれる。

投稿応募の申込み締切り・・・2020年10月末日

原稿提出期限・・・2021年1月末日（厳守）

\*完全原稿状態での電子データ(GoogleドキュメントとPDF両方)をメール添付、場合によっては、紙プリント2部を求めることがある(要相談)。

\*本文とは別に、巻末に記載する100字程度の略歴が必要となる。原稿提出と同時に、メールで送付のこと(紙焼きプリントの必要はない)。

### 査読及び原稿の採否

査読は査読委員2名により行われ、担当の査読委員は、独自性、論理性、実証性、有効性などを踏まえて、総合的に掲載の可否を判断し、採択の可否を決める。

その際に、査読委員は執筆者に修正を求めることがある。

これによる原稿のページ数の増減は、投稿規定の限りではない。

査読委員による査読・・・2021年2～3月（予定）

執筆者校正・・・2021年4月

冊子刊行・・・2021年5月

投稿申込み先：日本スペインピアノ音楽学会 学会誌担当 biblio.jsspm@gmail.com

原稿の提出先：日本スペインピアノ音楽学会 学会誌担当 biblio.jsspm@gmail.com

郵便物提出先：〒215-0024 川崎市麻生区白鳥3-9-14 森方 森ピアノ教室 宛

## 《論文・研究ノートの様式》

### 1) 本文の書式について

①ページレイアウト A4版 横書き 1200字詰め（40字×30行、文字数と行数を指定する）

②余白 上下 35mm 左右 30mm

③フォント

タイトル（主題） 14ポイント、MS ゴシック、中央揃え

タイトル（副題） 11ポイント、MS ゴシック、中央揃え

氏名 10.5ポイント、MS 明朝、右揃え

（タイトルの英訳、氏名のローマ字表記も併記すること。Century）

本文 10.5ポイント、MS 明朝

### 2) 分量の目安

本文、参考文献表、巻末資料を含めて、以下の分量を目安とする。

（1ページは文字データのみの場合で約1200文字）

論文 20ページ以上 30ページ以内

研究ノート 10ページ程度

紹介・報告 2ページ～6ページ程度

エッセイ 2ページ～6ページ程度

### 3) 章立てについて

①論文、研究ノートについては、章に分けて構成、または小見出しをつけること。

②章は1. 2.・・・、章の中の項目は 1) 2)・・・と表記する。

数字、ドット、「 ） 」は全角。

③紹介・報告記事、エッセイについては、この限りではない。

## 《記載方法について》

### 1) 作品名及び作曲家の表記について

- ①作品タイトルは《 》で括る。
- ②組曲のように複数の曲がまとまって構成されている作品内の個々の曲については、〈 〉で括る。
- ③書名は『 』、記事名は「 」とする
- ④主要な人名は初出時にフルネームで記し、原綴と生没年を併記する。  
数字はen ダーシで繋ぐ。例：イサーク・アルベニス Isaac Albéniz(1860-1909)
- ⑤日本人の名前は初出時にフルネームで記し、丸括弧内に生没年を併記する。  
数字はen ダーシで繋ぐ。例：武満徹 (1930-1996)

### 2) 数字、アルファベットについて

本文中の数字（年号、作品番号など）やアルファベットは半角で表記する。

### 3) 本文中の引用について

- ①短い引用は鉤括弧「 」を使う。
- ②長い引用は独立した段落とし、前後の段落とは1行空けて全角2文字下げる。
- ③引用文中の中略には [……]を用いる。
- ④楽譜の引用は、都度 © (copyright) を明示する。
- ⑤引用の出典文献は、論文では本文中で（ ）にて著者と発行年を明記し、書誌情報は本文の後ろの補注にて番号順に表記する。補注および、引用文献の記載方法については、4)、5)を参照のこと。研究ノートにおいてはこの限りではないが、可能な限り論文に準じる。

### 4) 補注について

- ①原則として尾注を用いる。
- ②本文の当該箇所につき数字で示し、その注を本文の後ろに記載する。  
例：本文中 「○○○」<sup>1</sup> 尾注にて <sup>1</sup> 補足説明

### 5) 引用文献・参考文献・参考資料の記載について

引用文・図版などの出典文献の記載方法は、3)⑤、4)も合わせて参照のこと。  
参考文献表は、論文末尾に著者名の五十音順、欧文書籍の場合は著者名のアルファベット順に記載する。  
補注で引用の出典文献を明記している場合は、重複を避けて、参考文献としての記載を省略する。

インターネット上の執筆者不明記事（Wikipedia を含む）の引用は禁止とする。  
インターネット上のサイトを参考にした場合は、以下のように表記。

著者（年） 「題名」 入手先 URL（閲覧日）

#### 6) 日本語文献の記載書式

- ①文献：著者または編者名 翻訳者がいる場合は翻訳者名 出版年（必要な場合は「関連章名」） 『文献名』（引用文献の場合は、該当頁。） 出版社  
出版年は第1刷の年を表記すること。
- ②雑誌：著者名 出版年 「記事題目」 『雑誌名』 巻, 頁.
- ③新聞：『新聞名』 刊行年月日, 頁.  
(執筆担当記者名が記されている場合) 記者名 刊行年月日 「記事名」 『新聞名』  
頁.
- ④CD ブックレット：解説者名 リリース年 《CD タイトル》 演奏者上限3名（複数  
数名を記載する場合はそれぞれを・で区切る） 制作会社 制作地（引用文献の  
場合は、該当頁.）

引用の範囲を示す場合は、数字を en ダーシで繋ぐ。

一つの文献が2行以上にわたる場合、2行目以降は左端を全角2文字分下げる。

#### 7) 欧文文献の記載書式

- ①欧文文献の著者名は、姓, 名 の順に表記する。例：Granados, Enrique
- ②『 』は使用せず、タイトルはイタリック体で表記すること。引用文献の場合、  
該当するページ数は最後に入れる。  
例：Clark, Walter Aaron(2006), *Enrique Granados Poet of the Piano*,  
Oxford University Press, 142-143.
- ③編集書である場合、編者名のあとに(Ed)、複数いる場合は(Eds.)を付す。
- ④CD ブックレットの場合：解説者名(リリース年), CD タイトル（イタリック体  
で表記）, 演奏者上限3名（複数名を記載する場合はそれぞれをセミコロン；で  
区切る）, 制作会社, 制作地（引用文献の場合は、該当頁.）  
例：Paniagua, Carlos (2002), *Mudéjar*, Olavide, Begoña (Voz, Salterio);  
Amusatogui, Ramiro(Ud); Estevan, Pedro(Percusión), JMPA005  
JUBAL, Málaga

括弧やカンマも半角とする。カンマとセミコロンの後は半角空ける。

## 《その他の注意事項》

### 1) 原語の単語の行またぎの処理について

原語の単語が、文末から文頭へかけて行をまたいで現れる時は、その音節分けを辞典にしたがって適切に行う。

### 2) 本文中に挿入する参考資料(図表・写真・グラフ等)の掲載について

- ①本文の内容理解のために最も適切と判断される箇所に記載する。
- ②転載については、掲載元の許可が必要となる場合があるため、十分に留意する。
- ③転載希望の資料について許可申請先が不明の場合は、JSSPM に連絡する。